

12月田原市議会傍聴記

地方政治 クリエイト 伊藤 秀昭

■食品ロス  
食品ロスの削減に向けて議論を展開し、食育推進の取り組みや働きかけについて聞いたのは辻子氏(公明)。

産業振興部長は、もったいない意識の醸成や家庭ごみ説明会で「買すぎない!作り過ぎない!食べ残さない!」を呼びかけていると聞いた。

田原市ならではの農水産物がどれだけ苦勞して作られているか、それらがどの

分けて整理しているとし、広域連合では統一の実施基準を定めることや、市独自のサービスとして継続する事業の整備も行われた。

は長神隆士氏(自民クラブ)。  
総務部長は、加齢による身体機能や判断力の低下により事故の被害者だけでなく加害者となるケースが増えているとし、「高齢ドライバーへのラ

から被害防止に取り組んでいるとし、長神氏は免許証返納が倍増しているが、更に推進するために「田原健康マイレージ」を組み入れることなどを提案した。

市で始まった「福祉のまちづくり」や、97年からの旧田原町での「福祉のノーマライゼーション」についての取り組みなどを話したが、勉強させていた

末660人であった職員数を今後5年間に657人にするのでは市民理解が得られないと主張。今後は厳しい財政運営が余儀なくされることから、財政規模に応じて職員数は減らすの

を行っていきたくいと答えた。  
赤尾氏は「職員適正化計画」と「公共施設適正化実施計画」との整合性について質問を展開したが、国の「働き方改革」の動きもあり、大事な視点だった。

古川氏は様々な公共施設を今後、サービスの低下を招くことなく取り組むことを要請した。

多様な課題に柔軟な取り組みを

が低下しないようカバーすべきことを要請した。

■高齢者の事故対策  
安全安心なまちづくりについて、高齢者の事故対策、振り込め詐欺対策などについて取り上げたの

イト点灯や安全速度での運転を啓発し、他の世代にも高齢者に配慮する意識を高めるための啓発も実施している」と回答。振り込め詐欺の手法は巧

フリー整備は田原市の魅力を高めることと、福祉の視点を持った教育の重要性を訴えた。

かなどと質問した。総務部長は、適正な定員管理といっても参考指標は様々であり、効率的で質の高い行政の実現に向け、長期的スパンでその時々に対応して定員管理

古川美栄氏(自民クラブ)は、策定された「公共施設適正化実施計画」の進捗状況や、施設の統合や縮減により不便を訴える利用者に対し、どのように理解を求めるとかと質問した。

「ゆりかごから墓場まで」とは市民生活のすべてに地方政治のかかわりを表現しているが、多様な課題に柔軟な取り組みを期待したい。

健康福祉部長は、広域連合で行う事務と市町村窓口で実施する事務とに

質問の中で廣中氏は、46年前に仙台

赤尾昌昭氏(市民クラブ)は、市から示された「職員適正化計画」で、昨年度

赤尾昌昭氏(市民クラブ)は、市から示された「職員適正化計画」で、昨年度

赤尾昌昭氏(市民クラブ)は、市から示された「職員適正化計画」で、昨年度

赤尾昌昭氏(市民クラブ)は、市から示された「職員適正化計画」で、昨年度

赤尾昌昭氏(市民クラブ)は、市から示された「職員適正化計画」で、昨年度